2018 年度春セメスター　授業評価結果

1．実施率

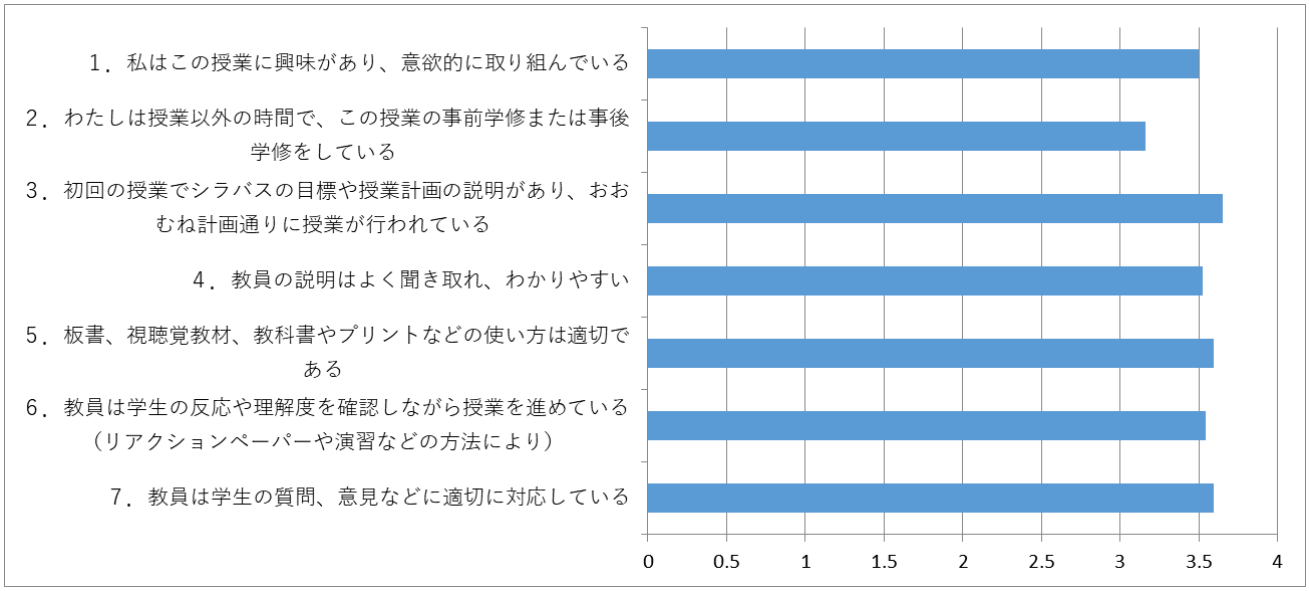
表１　授業評価実施率

	対象科目数	実施科目数	実施率（17 秋セメ実施率）
共通科目	63	63	100%（100%）
看護学部	45	45	100%（100%）
社会福祉学部	56	56	100%（100%）
リハビリテーション学部	55	55	100%（97%）
計	219	219	100%（98%）

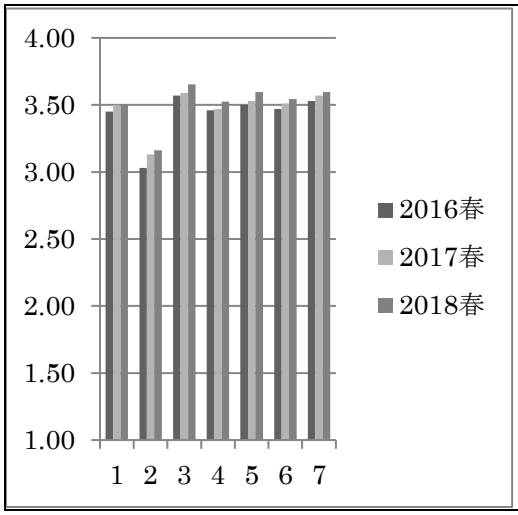
２０１７年秋セメよりも実施率が向上し、１００％実施となった。今後も１００％の実施となるように意識をもって授業改善･向上に取り組んでいかなくてはならない。

2．授業評価結果

図１　全科目における質問項目ごとの平均評定値



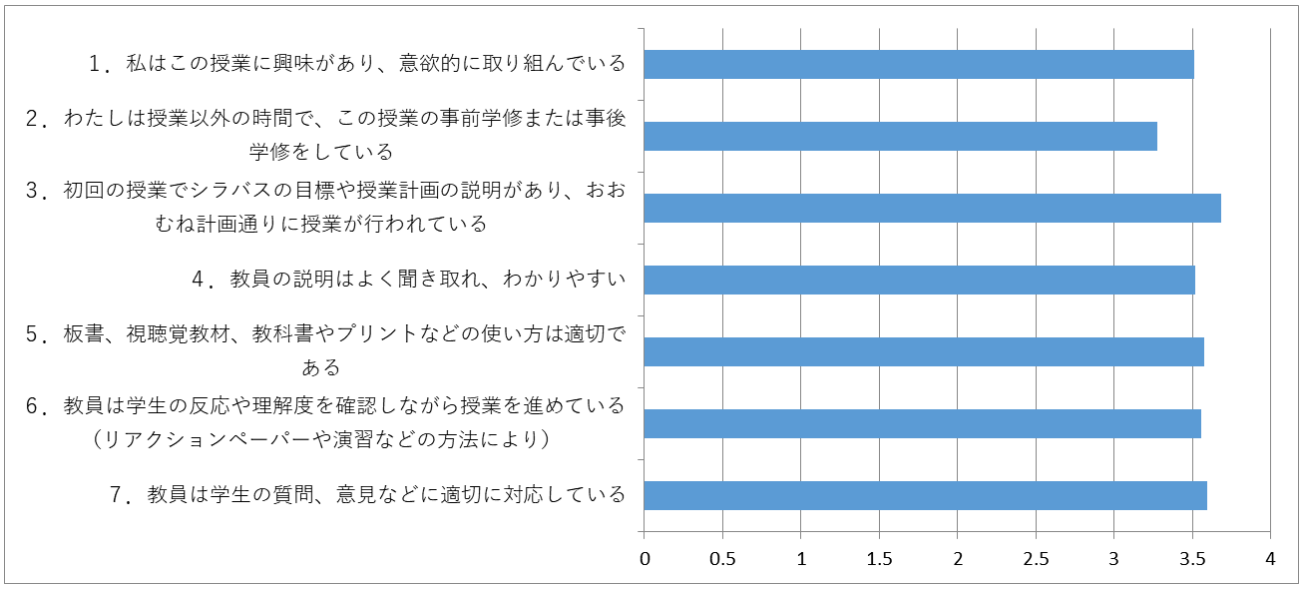
評価票の評価について「そう思う」（４点）～「そう思わない」（1 点）と得点を与え、質問項目ごとに平均評定値を算出した（図１～図 5）



左のグラフは 2016 年度から 2018 年度春セメ授業評価平均点の推移を整理したものである。どの項目においても、毎年平均点が上昇している。これは 2017 年度秋セメの授業評価結果でも同様に報告したものである。つまり、春･秋セメスター共に授業評価平均値が毎回向上している。これはまさに授業の向上･改善が全学的に継続して取り組んできた成果と言える。

今後は、学生 FD スタッフも交えて、この授業評価結果を振り返り、さらなる授業改善･向上に結びつけていきたい。

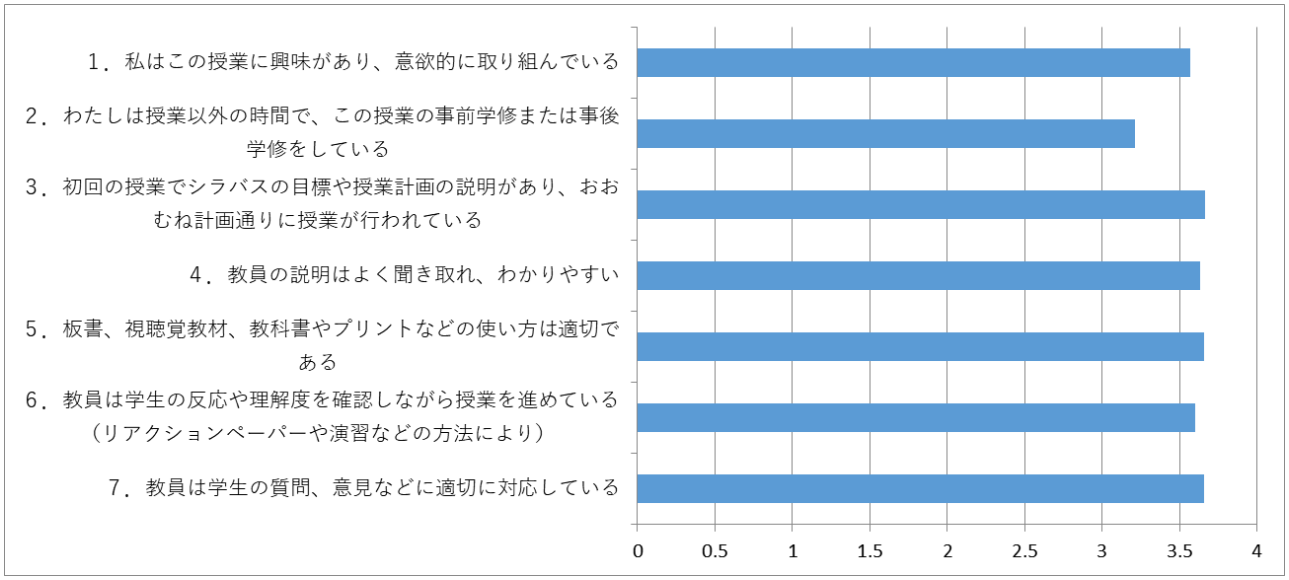
図２　看護学部における質問項目ごとの平均評定値



看護学部 FD 委員会のコメント

学生の理解に合わせた教授法に関連する項目 4～7 の平均評定値は、2017 年春に引き続き上昇した。これらは、ピアレビューの普及や全学・学部 FD 研修の開催、さらに看護技術到達について実習ごとの教員と学生の面接を通して、教員が学生個々の学びに注意し教授するようになった結果と考える。今後の課題は、学生の主体的な学習を示す質問項目 1 が他学部に比べて低い傾向であるため、質問項目 2 の事前事後学習の取り組みを学習への動機付けに活かし、学生の学習への興味や意欲を高める教育方法の改善に学部 FD として取り組む。

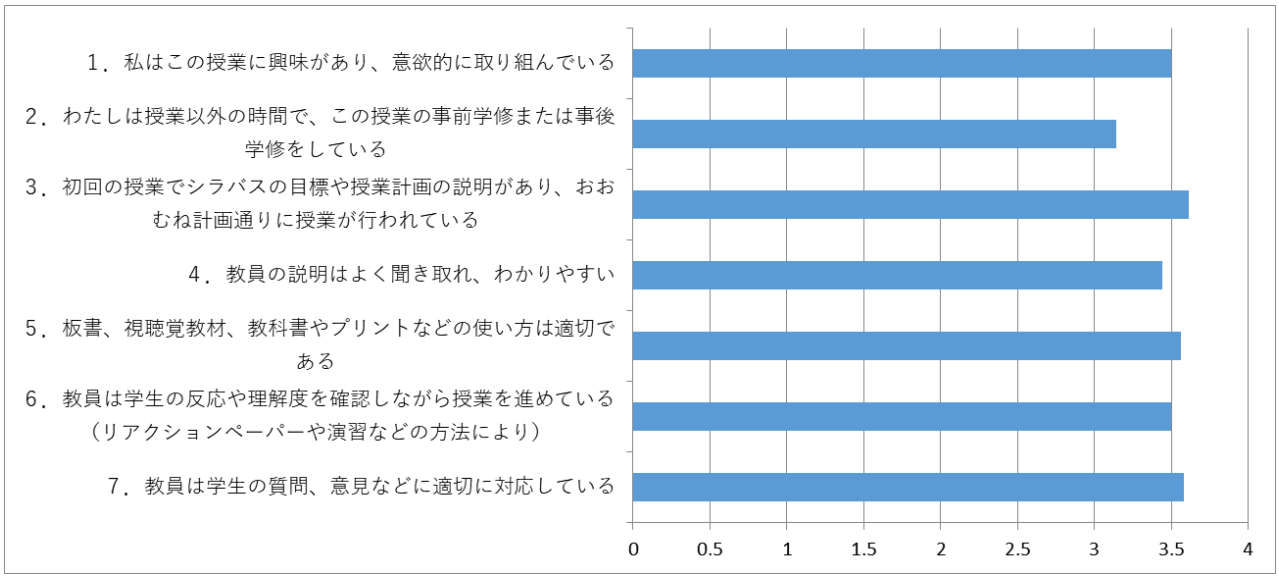
図３　社会福祉学部における質問項目ごとの平均評定値



社会福祉学部 FD 委員会のコメント

全質問項目（1～7）の評価点は、先生方の授業改善等の取り組みによって、2016 年春セメより継続して向上している。特に質問項目 2 においても、他学部の評定値と比しても決して低すぎるポイントではない。これについては、昨年度（2017 年度）の学部 FD 研修会において、教員同士の共有による改善を図ってきた結果と捉えている。但し、高い評定値ではないため、引き続き、授業改善・向上を目的に、今後も全体を通しての高い評定値を維持・向上ができる様、努めていきたいと考えている。

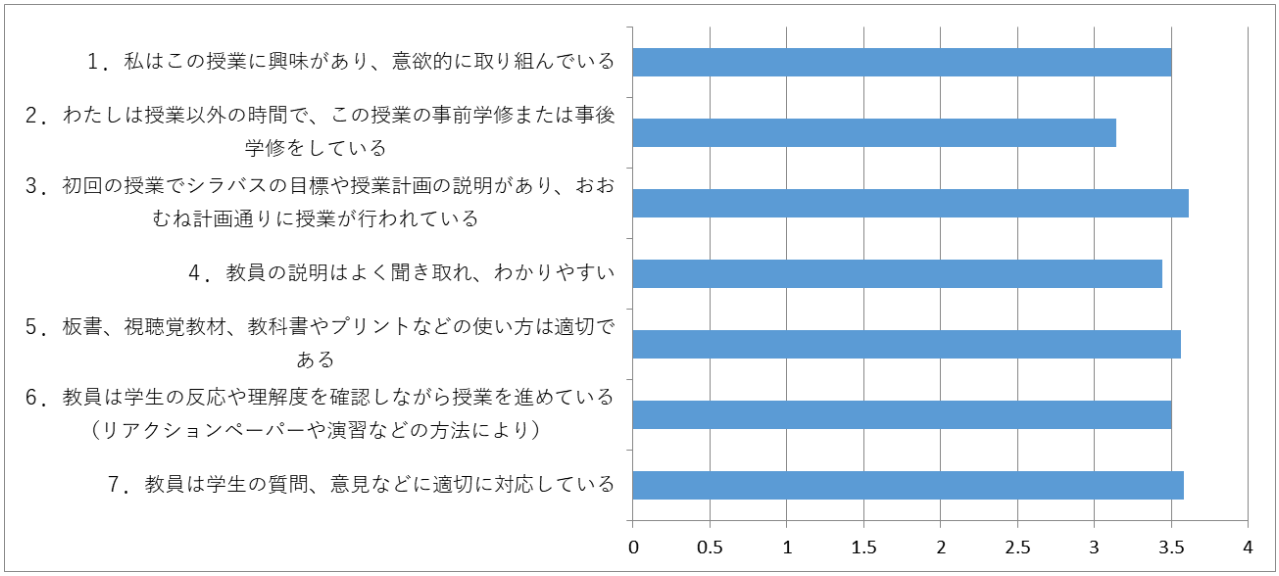
図４　リハビリテーション学部における質問項目ごとの平均評定値



リハビリテーション学部 FD 委員会のコメント

2018 年度秋セメはすべての対象科目において授業評価を実施することができた。Q2 以外の全ての質問項目において 3.50 ポイント以上となっており、良好な結果であったと言える。良好な結果であったのは、各教員が各々の授業形態に合わせ、学生にとってわかりやすく丁寧な授業づくりに取り組んだ成果であると考える。Q2 の「事前事後学修の実施」については、まだ他と比べると低値となっている。今年度 FD 活動としてもリーブリック評価、ポートフォリオ、反転授業等の質的な学修到達度理解や自己学修を充実するための手法の導入を推進しているため、さらに今後の改善を期待したい。

図５　教養・共通科目における質問項目ごとの平均評定値



教務部長のコメント

対象科目全てにおいて授業評価が行われたことは、非常勤講師が多い教養・共通科目ではあるが、授業評価の意義のご理解が進んでいる結果であると思われる。過去の春セメスターの結果と比較すると、徐々にすべての項目の平均評定値が上昇し、各教員がシラバス、授業内容、媒体、学生の理解度の確認等、授業の工夫に取り組んだ成果であり、これまでの授業評価を参考にしている結果であると考えられる。項目中最も低い「事前・事後学修」においても徐々に上昇し、各教員が「事前・事後学修」と授業を連動させ、事前・事後学修の内容を提示しているためであると思われる。